2026 年 3月期 決算説明会(2026.6.11 開催) Q&A

Q1. 社長の交代について、このタイミングとなった理由を知りたい。また、新体制ではどのような変化を起こしていく考えか。

A1. 現社長の年齢や後任の育成状況等、総合的に踏まえてこのタイミングとなった。新体制においても、これまでの経営方針のもと邁進していくが、長期的な視点では、クレイサイエンス事業の収益への早期貢献を果たすべく、一層研究開発に注力する方針。

Q2. 体制が変わることで、投資や株主還元の方針が変わる可能性はあるか。

A2. 株主還元については、現段階では既存の配当方針を継続していく。設備投資について、研究開発においては必要な設備を整備していく。生産設備については、例えば今期計画しているアグリ事業の生産能力増強や新たな商品開発により、生産数量が増えることが見込まれる場合には、設備投資を実施していく。

Q3. 現預金の水準についてどのように考えているか。計画通り利益が出るようであればさらに積み上がることが想定されるが、今後の現預金の使い方について、どのように考えているか。

A3. 鉱山を保有しているため、今後の鉱山開発において資金が必要となる。現在保有している鉱山の鉱区開発に加え、新たな鉱山の候補地の調査と開発にある程度の資金が必要になると考えている。

Q4. 競合他社について、セグメント別に国内・国外に分けて教えて欲しい。

A4. ベントナイト事業では日本国内に数社の競合がおり、主には群馬に拠点を持つ企業や西日本の企業がある。当社は特に東北で優位性があること、また、品質面での優位性を活かして今後もシェア拡大を目指す。クレイサイエンス事業では、主に欧米企業が競合となる。アグリ事業の受託については、日本国内に数社競合があるが、外注を増やしている農薬メーカーのニーズを取り込んで生産増を目指していく。

Q5. 低レベル放射性廃棄物処分案件について、現在の受注金額が概ね十数億円とのことだ

が、これは１号埋設地の１群から４群工事のみを対象とした金額か。また、今後の覆土工事についても同程度の金額が見込まれるのか。

A5. 今回の受注は１号埋設地の１群から４群までが対象となる。５群から８群についても同様の規模が見込まれる。２号埋設地についても１号埋設地と同規模になるものと予想している。

Q6. 低レベル放射性廃棄物処分案件の収益性については、以前の復興案件と比較してどうか。

A6. 復興案件と比較すると低くなるものと見込んでいる。

Q7. 種子コーティングは、鉄粉のコーティングか。また、御社の競争優位性についてどのように考えているか。

A7. 鉄粉ではなく、農薬や肥料成分を種子にコーティングした製品。他のコーティング製品と比較すると、発芽や初期の生育を促進することが優位性と捉えている。

Q8. 今後の鉱山開発について、１鉱山の開発金額はどのくらいを想定しているか。

A8. 現在は調査段階であり、具体的な数字は算出できていないが、数十億円の規模になるものと考えている。

Q9. 低レベル放射性廃棄物処分案件について、1 号埋設地の 5 群～8 群は発注済みか。また、1 号埋設地の 5 群～8 群で競合他社が受注する（もしくは受注した）可能性はあるか。

A9. 現時点で発注に関する情報は開示されていない。５～８群においても受注をすべく、受注実績を基に営業活動を進めている段階。

以上